

NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：第12回多文化共生のための国際理解教育・開発教育
セミナー（形態：講演）
2. 実施者：坂西卓郎、井上理子（(公財) PHD協会職員）
3. 日 時：2015年8月10日(月)・11日(火)
(15時00分～16時30分)
4. 場 所：JICA関西センター
(神戸市中央区脇浜海岸通)
5. 参加者：国際理解教育・開発教育に関心のある教職員・学校関係者 計41名

6. 実施報告：

第12回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナーの分科会「G. 入門編『途上国の人々との話し方』」としてワークショップを行った。本セミナーの目的としては教職員や学校関係者に開発教育のワークショップの手法をレクチャーし、研修を受けた参加者が学校で実践するという事で波及効果を狙うものである。上記を受けて本分科会では、国際協力の現場で使われている「対話型ファシリテーション」の解説と練習を実施した。またNGO相談員制度についても解説し、模擬出張サービスも行った。ちなみに全体

としては9つの分科会があったのだが、本分科会が一番参加者が多い分科会であった。ワークショップは「使われない井戸」、「『なぜ』を使わずに聞いてみよう」の二つのワークを行い、解説も行った。先生方の評判は大変良く、「道德の時間でも生徒の本音を引き出すために『なぜ』を使わない進行をしているので、大変参考になった」、「新しい視点で勉強になった」、「図工の時間でも使えそうです」などなど、2学期以降の実践に使えそうという声を多くいただいた。またNGO相談員の紹介と模擬出張サービスの実施も好評であった。今回はPHD協会ができることとして、研修生の紹介を行ったが、「日本語で生徒とも直接交流ができる」、「出張サービスが無料ならありがたい」という声をいただき、分科会終了後には「また連絡します」と名刺をもらいに来られる方々が何名もいた。またNGO相談員サービスの紹介は分科会だけでなく、全員が揃う開会式の場でも行ったので、80名以上の教職員及び、学校関係者の方に告知ができ、広報という観点では大きな成果を達成できたと思われる。相談員ブースでは分科会后、1日のセミナーの疑問や情報収集に来られた方が多く、今後の授業に繋げていきたいとの声があった。

7. 添付画像：別紙に当日の様子を3枚添付



「第12回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」の様子①
分科会でNGO相談員制度についての説明をしているところ。

『「第12回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」の様子②
途上国の人々との話し方』実施の様子



「第12回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」の様子③
開会式でNGO相談員制度について説明をしているところ

「第12回多文化共生のための国際理解教育・開発教育セミナー」の様子④
ブース出展場所の様子



NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：大阪府立長吉高等学校「国際協力に関する特別講演会」（形態：講演）
2. 実施者：西 保彦（特活）関西国際交流団体協議会
3. 日 時：2015年8月26日(水)（10時45分～11時35分）
4. 場 所：大阪府立長吉高校会議室
5. 参加者：高校生，教師，NGO 関係者 計85名

6. 実施報告：

講演依頼先の大阪府立長吉高等学校は在校生の約半数近くが外国籍を持つ生徒が在籍しており、学校の教育方針の中で総合学習の時間の一つとしてWS（ワールド・スタディ）と言う通常の教科の枠を超えて世界の文化を学ぶ授業を実施している。年間2回同授業を実施しており、今回前期講座としてアジアを中心とした世界について学んだ生徒たちに実際に海外の現場で国際協力活動に従事しているNGOの方から体験談を講話されることで現実世界を知り、各生徒が国際化社会の中で、どのような形で国際協力出来るかを自ら考えていく目的で開催された。国際協力の活動推進に際して外務省が実施しているNGO相談員制度を広く若者に認識してもらう事を目的として紹介した。国際協力活動において世界と日本の関わりを紹

介する参考資料としてJICA発行「どうなっているの？世界と日本」を用いて基礎的な知識内容を提供した。

NGO相談員制度紹介(20分)→(特活)関西国際交流団体協議会

7. 全体的な感想：

参加生徒の殆どが何らかの形で海外と繋がっており、国際社会・多文化共生社会を常に肌で感じている。しかし日本で生活しているゆえに、世界の厳しい現状を実際に現場で活動しているNGOから話を聞くことで現実的な認識を得られたと感じた。国際協力活動(例としてJICA)や多くの様々なNGOの活動について、外務省NGO相談員制度により各自が疑問や知りたい事項があれば相談を受ける事が出来る制度がある旨を伝え、同制度の意義を伝えることができた。今後この生徒たちが日本と諸外国との国際協力にたずさわる国際人になりうることを実感した。

8. イベント開催時の風景

